

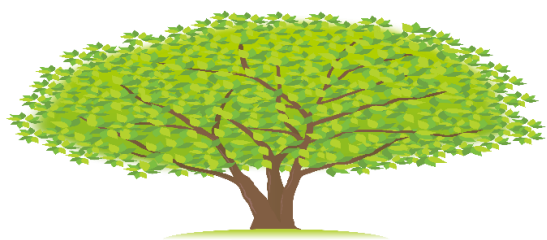
さるしま junior

第16号(冬一その1)

令和3年12月17日発行

園長 小菅 哲也

諏訪小学校のみなさん、すてきなメッセージをありがとう!



3か月後にせまった「修了証書授与式兼閉園式」。その式場の一角には、「閉園の木」が飾られる予定です。この「閉園の木」を彩るのは、諏訪幼稚園関係者の皆さんや地域の方々のメッセージです。当初、「おわかれ開放日」(3月5日開催予定)に来園された皆さんにメッセージを書いていただこうと、木の葉をかたどったカードを用意してきました。11月初めに、諏訪小学校の黒川校長先生にこの話を持ちかけたところ、何と!全校を挙げて取り組んでくださいました。

12月3日(金)、メッセージが届きました。1年生から順番に、封筒にきちんと収められています。1クラスずつ封を開け、カードを確認します。どのカードも心を込めて、ていねいに書かれているのが一目でわかります。その文章に目を通すと…



- ♡ 諏訪幼稚園でのあの日の出来事が、昨日のここのように鮮明に綴られた作品
- ♡ 過ぎし日の幼稚園での生活で、寄り添い励ましてくれた教職員への感謝を伝える作品
- ♡ 「夢をあきらめないで」をはじめとした力強いエールを園児に届ける作品
- ♡ 交流相手の園児とのエピソードをきめ細かく綴ったドラマチックな作品
- ♡ 最後の運動会での園児の奮闘ぶりをスリリングにそして温かく描いた作品
- ♡ 園児のイラストや園児の好きなキャラクターが添えられた微笑ましい作品
- ♡ バックにグラデーションや模様を描き、美しく仕上げた作品……



1枚1枚読むたびに胸が熱くなります。諏訪っ子たちのやさしさやぬくもり、児童一人ひとりの豊かな個性、諏訪小学校の一体感や教育活動の素晴らしさがひしひしと伝わってきます。教職員の皆さんまでもが、おいそがしい中、メッセージを寄せてくださいました。400余枚の美しい木の葉を手にして、幼稚園の教職員は言葉が出ませんでした。

あれっ? 1年生が「小学校3年生」に見える!

諏訪幼稚園に赴任した一昨年(2021年)の5月。小学校1年生と園児との第1回目の交流が行われました。私にとって初めての幼小の交流です。この時期の1年生と言えば、小学校に慣れるのに精いっぱい、6年生に給食当番や





掃除を手伝ってもらったり、休み時間になると遊んでもらったり、学校の中を案内してもらったり、「お世話してもらるのが定番」でした。

ところが、目の前で信じ難い1年生の活躍が繰り広げられました。大勢の子どもたちを前に、はきはききびきびと司会をしたり、覚えてたの校歌やダンスを自信満々に披露したり、その後のグループ活動をリードしたり…。私の心の中の「小学校1年生のイメージ」が大きく揺らぎ出しました。そんな1年生の頼もしい姿を見て、「1年生って、こんなにいろいろなことが出来るんだ」「諏訪小学校の1年生は、まるで小学校3年生みたいだ」と感心している自分がいました。そして、2回、3回と交流を重ねていく中で、1年生の頼もしさはグングン増していきました。

交流を終えた幼稚園の教室では、1年生が見せてくれた歌やダンスを真似している子や、1年生が教えてくれた折り紙の作品づくりを試してみる子、1年生の話し方そっくりに朝の会の司会をする子などが続々と登場しました。1年生への憧れの気持ちを抱きながら、その背中を懸命に追いかけてようとしているのがはっきりとわかりました。



交流は、子どもたちの可能性が目を覚ますとき…



同じ年の9月には、5年生との交流が「三笠公園」で行われました。

5年生と園児とでペアを組んで行った「手つなぎ鬼」でのことです。

ゲームが終わっても集合せずに走り回る園児A君。そのもとへ素早くかけ寄って、やさしく諭す5年生B君。しばらくすると、B君におんぶしてもらって、みんなのもとにやって来るA君がいました。そのA君がクイズで正解すると、B君はうれしそうに拍手を送っていました。そんなB君のA君への関わりを見て、高学年児童の頼もしさやB君の心の大きさを感じずにはいられませんでした。A君はB君にすっかり心を開き、その後もB君につきっきりで活動していました。

あとで知ったことですが、B君は教室では、やや反抗的で、仲間に迷惑をかけた時などなかなか素直になれない児童だそうです。「B君のあんな笑顔を初めて見ました」と感慨深げに話す担任の先生の表情が強く心に残りました。



交流では、ふだんの学校生活や園生活では見られない、子どもたちの新たな一面が顔を出すことがしばしばあります。時に、それは、私たちの「当たり前」や「思い込み」を覆すこともあります。交流は、小中学生や園児にとって、自分でも気がついていない、すてきな可能性が目を覚ます格好のチャンスなのかもしれません。

今年度も、園児たちの中に、「交流の成果」と思われる姿がたくさん見られています。友達に自分



から声をかけられるようになったり、思い通りにならないときの気持ちの切り替え方を身につけたり、ものづくりやお絵かきで新しい技を生み出したり…。知らず知らずのうちに小中学生から大切なことを学んでくれています。40余年の歴史を誇る諏訪幼稚園の交流もいよいよ大詰めです。そんな機会が、ひとつでもふたつでも訪れることを願わずにはいられません。